

# 第3章

## 市民・事業者の 環境への取組状況

本章では、市民、事業者、民間団体、行政がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解し実行できるよう平成12年8月に設立された「かわごえ環境ネット」等の活動を紹介しています。

## 社会環境部会の活動

2021年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、それ以前のような不特定多数を対象とした活動は自粛することとなりました。一方、脱炭素社会に向けての世界的な動向や、脱成長に関する議論の活性化、2030年までの持続可能な開発目標SDGsの社会への浸透など、ここ数年はグローバル規模で社会システムの転換期にあることを実感しています。未曾有の感染症の終息が見えない中、私たちはこれまで以上に自分が暮らす地域において自然環境とのつながりを回復していくことや、生活スケールからの社会課題へのアクションが重要になっているのではないのでしょうか。

社会環境部会が目標に掲げる「持続可能な社会の構築」、「地球温暖化対策の推進」、「循環型社会の形成」といった一見個人や市民団体に対応することに臆してしまう大きなテーマに関しても、日々の生活やまちでの暮らしにスケールダウンして、世界と今ここを結び付け、ささやかな変化を実践していくこと、そのためのアイデアを市民団体として発信することを意識した1年でした。

社会環境部会の担当するコラム「社会と環境について思うこと」では、2021年は11件のコラムを投稿し、SDGsや脱炭素社会、身近なエコ活動などに関するテーマを扱い、部会メンバーで協力して、環境問題に関する意識啓発をしました。

自主活動としては、①6月に「埼玉版SDGs」についての講座を例会にてオンライン受講、②12月には環境講演会2021「脱炭素社会に向けて～市民がやるべきこと 挙げるべき声～」をウエスタ川越で開催、また社会環境部会の新たな試みとして③農業に関するアンケートを行いました。

協力活動としては、④10月に開催された「アースデイ川越 in 昭和の街2021」においてオンラインワークショップ「みつけてみよう!!みんなのおうちからつながる世界2021」の出展、⑤7月に開催された「川越若者会議」第5回会議への参加もしました。

### 【コラム】社会と環境について思うこと（11件）

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| (6) SDGsの考え方を生かした取り組みについて  | [2021年1月号 No.171]  |
| (7) 暴走する地球温暖化を止めるために！      | [2021年2月号 No.172]  |
| (8) 『健康な笑顔』～ネパール日記から       | [2021年3月号 No.173]  |
| (9) ミミズ利用による家庭生ごみ処理        | [2021年4月号 No.174]  |
| (10) 田んぼは都市のコモンズになり得るか     | [2021年5月号 No.175]  |
| (11) 経済成長が気候変動に、脱成長の実現を!!  | [2021年6月号 No.176]  |
| (12) ごみをお金に代えている徳島県上勝町との比較 | [2021年7月号 No.177]  |
| (13) 大江戸しあわせ指南～身の丈に合わせて生きる | [2021年8月号 No.178]  |
| (14) 脱炭素社会に向けて (1)         | [2021年9月号 No.179]  |
| (15) 農ある暮らしを通じた持続可能な社会     | [2021年10月号 No.180] |
| (16) 脱炭素社会に向けて (2)         | [2021年11月号 No.181] |

### 【自主活動】

- ① 「県政出前講座『埼玉版SDGs』をオンライン受講 [2021年7月号 No.177]

6月11日の例会の時間を活用して埼玉県におけるSDGsの推進状況について「県政出前

講座」を受講しました。本講座をきっかけにかわごえ環境ネットも「埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォーム」に入会することになりました。

②環境講演会 2021 の開催

[2022 年 1・2 月号 No.183]

12 月 4 日、ウエスタ川越にて環境講演会 2021「脱炭素社会に向けて～市民がやるべきこと 挙げるべき声～」を開催し、会場には 25 名の参加者がありました。また、オンラインによる同時配信も行いました。講演会では、近年の世界的な気候変動に関する状況や、日本のエネルギー構成と削減目標、そしてわれわれ市民が脱炭素社会に向けて取り組むことについて説明がありました。本講演会を受け、社会環境部会では「脱炭素社会に向けてわたしたちにできること」の冊子を作成することを検討しています。

【協力活動】

④アースデイ川越 in 昭和の街 2021 への出展

[2021 年 11 月号 No.181]

10 月 3 日～10 日にかけて「アースデイ川越 in 昭和の街 2021」が開催され、社会環境部会では、昨年同様オンラインワークショップ「みつけてみよう!!みんなのおうちからつながる世界 2021」を実施し、参加者の自宅にあるモノの原産地や生産地を調べ、地図に表現し表現することで世界とのつながりを考える場となりました。

⑤「川越若者会議」第 5 回会議に参加

[2021 年 9 月号 No.179]

7 月 31 日（土）に川越青年会議所が主催している「第 5 回川越若者会議」（於ウエスタ川越）にかわごえ環境ネットのメンバーが参加しました。第 5 回会議は「世代を超えた意見交流会」という内容で、まちづくりに関心のある多くのプレイヤーと多様な意見を交換することができました。

以下、詳しい活動報告をご覧になり、かわごえ環境ネットの応援をして頂けますと幸いです。

県政出前講座『埼玉版 SDGs』をオンラインで受講

社会環境部会



県庁とオンラインでつないで、やり取り

SDGs（持続可能な開発目標）は、特に最近、新聞、テレビ、広告など、マスメディアで頻繁に取り上げられるようになりました。社会環境部会では 6 月 11 日の例会の時間を活用して、埼玉県における SDGs の推進状況について「県政出前講座」を受講しました。

県政出前講座は団体、企業や学校などを対象に実施しているもので、埼玉県職員がさまざまなテ

ーマについてわかりやすく説明するものです。今回は、埼玉県庁企画財政部計画調整課と、社会環境部会の例会会場である川越市役所前の福田ビル 3 階会議室をオンラインでつなぎました。講座で説明のあった埼玉県の SDGs の取組について、以下に報告します。

## 埼玉版 SDGs 推進の重点 2 テーマ

### ①「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」

### ②「未来を創る人材への投資」

このうち、①「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」については、本年度は「Next 川の再生の推進」「SAITAMA リバーサポーターズプロジェクト」「森がつなぐ山とまちの未来事業」「プラスチックの持続可能な利用モデル促進」などが予算事業化されている、ということです。

## 埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォーム

このプラットフォームは昨年 9 月に県により設

埼玉県版 SDGs ～17 の目標と県の取組との関連性～（当日の配布資料より作成）

番号	SDGs の 17 の目標	埼玉県の主な取組
1	貧困をなくそう	生活保護世帯等の子供の学習支援、子供の居場所づくり
2	飢餓をゼロに	儲かる農業の推進
3	すべての人に健康と福祉を	健康長寿埼玉プロジェクト、地域包括ケアシステムの構築
4	質の高い教育をみんなに	生活保護世帯等の子供の学習支援
5	ジェンダー平等を実現しよう	埼玉版ウーマノミクスプロジェクト
6	安全な水とトイレを世界中に	川の再生
7	エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	水素など新たなエネルギーの利用拡大
8	働きがいも、経済成長も	アクティブシニアの活躍推進
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	先端産業創造プロジェクト、スマート行政の推進
10	人や国の不平等をなくそう	人権教育・啓発の推進
11	住み続けられるまちづくりを	水害などの災害対策、インフラの老朽化対策
12	つくる責任、つかう責任	彩の国資源循環工場、食品ロスの削減
13	気候変動に具体的な対策を	目標設定型排出量取引制度
14	海の豊かさを守ろう	マイクロプラスチックの削減
15	陸の豊かさを守ろう	みどりの再生
16	平和と公正をすべての人に	児童虐待防止対策の推進
17	パートナーシップで目標を達成しよう	地域支え合いの仕組み

- ・プラスチック資源の循環利用促進
- ・水辺空間及び都市公園等の持続可能な利活用
- ・里山や平地林などの自然環境の保全
- ・カーボンニュートラルの実現

また、「埼玉県 SDGs パートナー登録制度」（一定の要件に基づき、企業等に対していわば行政のお墨付きを与えるもの）のほか、今年度から行うアプリによる県民への SDGs 普及啓発・広報、学校を通じた普及啓発についての説明も併せてなされました。

この講座の締めくくりにあたり、講師の佐藤主査は、本県出身の実業家・慈善事業家の渋沢栄一について、次のように語りました。

『「道徳と経済は調和させるべき」や、『一人だけが巨富になっても、そのために社会の多数が

置され、会員は県内の SDGs 達成に資する活動を行う企業・団体です。

プラットフォームの活動内容は、SDGs の普及・啓発（シンポジウム開催等）、会員間の情報共有、SDGs 活動促進に向けた方策の検討や、個別テーマを検討する分科会の開催などです。このプラットフォームには重点テーマに関する 2 つの分科会が設置されており、そのうち「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会には、次の 4 つの課題ごとに検討部会が設置されます。

『「道徳と経済は調和させるべき」や、『一人だけが巨富になっても、そのために社会の多数が貧困に陥るようでは、その幸福は継続されない』という渋沢の主張は、SDGs の本質に通じます。』  
著書「論語と算盤」に代表される「道徳経済合一説」をあらためて現代にとらえ直す時期に来ていると思われま。

当日の例会出席者は 13 人。いくつかの質疑応答を経て、講座は終了しました。

なお、県政出前講座には全体で 272 のテーマが用意されていますが、そのうち環境に関するものは実に 28%（76 テーマ）を占めています。「環境問題」が地域社会から地球全体まで、この地球上に住むすべての人々に関わる根本的な命題となった時代の到来です。

【追記】この講座を受けて、6 月 16 日開催の理事会で協議の結果、かわごえ環境ネットが「埼玉県

SDGs 官民連携プラットフォーム」に入会することが決定されました。

今回、社会環境部会では川越での SDGs 「持続可能な開発目標」の普及状況を把握するため、私たちの身の回りで SDGs に関する取組を行っている団体にインタビューをしてきましたので、レポートしたいと思います。

インタビューは、6月26日（金）に社会環境部会のメンバー4名（武田、宮崎、中村、増田）で川越環境保全連絡協議会を訪問し、事務局担当の中村隆氏（川越商工会議所経営支援グループ長）と面談しました。川越環境保全連絡協議会は、大正浪漫夢通りの北側に位置する川越商工会議所内にあり、環境保全に関する情報交換や講習会の開催を通じて、環境保全の推進を図っていくことを目的とする団体です。2020年4月時点で、73の事業所と9名の個人会員が所属しています。事業所会員の多さがかわごえ環境ネットとの違いを感じます。事業所会員は工業系の中小企業が大半で、川越と周辺の市町を拠点としています。ちなみに、かわごえ環境ネットの会員は2020年5月時点で、個人137、民間団体25、事業者26、行政1で、合計189会員となっています。

川越環境保全連絡協議会では、2年ほど前から企業が環境や社会に配慮したビジネス展開をしていくため講習会を開催しています。2019年2月には外務省の国際協力局による「持続可能な開発目標（SDGs）～日本政府の取組と企業におけるSDGs～」、2020年2月には環境省の関東地方環

境事務所による「企業における SDGs について」と題した SDGs の普及に向けた講習会が行われました。

今回、川越での SDGs の普及状況に関するお話を伺う中で感じたことは、中小企業ならではの活動の見える化の大切さです。私たちがマスメディアで目にする大企業は、財源や人材に余裕があり、SDGs レポートの作成や環境改善に関わる活動のアピールを積極的に行っている一方で、中小規模の企業ではなかなかそこまで手が回っていないところがあるのも現状のようです。また、SDGs への理解と取組に関する個別企業間の温度差もあるようです。中小企業は身近な価値創造の原動力になっており、私は身近な経済活動自体の中にも『SDGs の種』が見いだせると思っています。ただ、SDGs という視点からの経済活動の見方やアピールのチャンネルをいかに獲得していくかが課題であると感じています。

SDGs は 17 ゴール、169 のターゲットからなる包括的で分野横断的な目標です。そのため、SDGs というフィルターを通して、これまで行っていた企業活動を改めて見ることにより、これまで見えていなかった社会的環境的なつながりが見えてくることを期待しています。環境に関わる市民団体として、既存の見方をずらしてみることによる新たな価値の発見が大切になるのでは、と感じました。

（社会環境部会代表 増田知久）



「川越若者会議」第5回会議にかわごえ環境ネットのメンバーが参加



川越 Reborn

体験 4月 川越観光 / 5月 農業体験 / 6月 子育て体験 / 8月10月 歴史・文化

開催概要 対象 (川)18歳～49歳の若者(川越市在住) / 申し込み期限 2021年3月12日(金曜日) / 会場 ウェスタ川越

とき 定員人数10～15名 ※定員が多い場合は通常おこなわれます。午日が実際の体験となり、午後はディスカッションになります。

イベントスケジュール	開催時期	テーマ
第1回会議	2021年3月29日(月) 19:00～21:00	職業教育、グループワーク
第2回会議	2021年4月24日(土) 10:00～16:15	テーマまち(川越の観光、まちづくりについて)
第3回会議	2021年5月29日(土) 10:00～16:15	テーマまち(川越の農業、産物について)
第4回会議	2021年6月27日(日) 10:00～16:15	テーマまち(川越の子育て支援、男女参画について)
第5回会議	2021年7月31日(土) 後日連絡	意見交換会
第6回会議	2021年8月21日(土) 10:00～16:15	テーマまち(川越の歴史・文化について)
第7回会議	2021年8月29日(土) 後日連絡	まとめ
第8回会議	2021年10月7日(日) 後日連絡	川越祭 山梨県行体験

川越若者会議は、若者の声で街に変化を、With コロナの時代に川越についても一度本気で考えようということで、川越市が抱えるさまざまな課題について話し合う場となっています。2021年は3月から約月1回ペースの開催で、10月までの第8回を予定しており、各回でまち・ひと・しごと・歴史文化という大きく4つの枠組みに関して、体験会や講演会、意見交換会が企画されています。

かわごえ環境ネットのメンバーが参加した第5回は「世代を超えた意見交流会」という内容で、前半は静岡県を拠点に若者を含めた多世代協働のまちづくりを推進している「NPO 法人わかものまち」事務局長の土肥潤也講師より、「若者の参加でまちが変わる」というテーマで講演がありました。土肥講師は学生時代よりまちに出て若者の声を届けるためのアクションを実践されており、商店街を始めとした様々なまちのプレイヤーと協同していく行動力には大変刺激を受けました。

会の後半では、ワールドカフェ方式で「まちづくりに対して自分よりも上の世代に求めること」、「まちづくりに対して自分よりも下の世代に求めること」についてグループディスカッションが行われました。世代や置かれている社会状況、歴史的バックグラウンド、関心のある分野が異なる人同士が共存していくまちの中で、自分とは違った視点を持っている人と意見を交わし、対話することの大切さを感じるとともに、改めてまちの多様性を認識する会でした。

(かわごえ環境ネット副理事長／社会環境部会 代表 増田知久)



参加者の集合写真

7月31日(土)、川越青年会議所が主催している「第5回川越若者会議」(於ウェスタ川越)にかわごえ環境ネットの横山副理事長、菊地理事、飯島理事、増田の4名が参加しました。



講演会の様子  
意見交換会の様子



## 環境講演会 2021「脱炭素社会に向けて～市民がやるべきこと 挙げるべき声～」



講師の山岸尚之先生

### (はじめに)

12月4日(土)に社会環境部会主催の環境講演会をウェスタ川越会議室1にて開催し、25名の参加者がありました。

今回の講演会では、新型コロナウイルス感染対策に十分注意(検温・アルコール消毒・マスク着用・席の間隔確保)を行ったことに加え、聴講者の数を制限するとの意味合いからYouTubeを利用したオンライン講演の同時配信も行いました。

昨今、地球温暖化に伴う異常気象が多発し、日本も含め世界各地で甚大な被害が報告されています。こうした気候危機が叫ばれる中、本年10月31日から11月13日に開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)にはおよそ世界200か国からの参加者があり、日本からも岸田首相と山口環境大臣等が出席しました。こうした状況からも、地球温暖化が人類にとっていかに深刻な問題であるかが伺えます。

今回の環境講演会では、この締約国会議(COP)に毎回出席され、政府の気候変動対策への提言者でもあるWWFジャパンの山岸尚之氏をお呼びして、「脱炭素社会に向けて～市民がやるべきこと 挙げるべき声～」と題する講演及び質疑応答を行いました。

### (講演内容)

山岸先生の講演では、①COP26の議論内容、合意事項、パリ協定のしくみ、②日本のエネルギー構成と削減目標、③われわれ市民が取り組むべきことについて具体例を交えながらわかりやすく

説明されました。今回の講演の中で特に印象に残ったのは、次の点です。

- ・G7とかG20のような主要国会議はあるが、途上国も含め190か国の代表が集まるような会議は他にない。それだけ、気候危機は地球規模で大事な問題ということ。また、COPでの合意したルールはそれなりの重みがある。温暖化の目標は、2.0℃から1.5℃に事実上シフトした。

- ・COP26には4万人の人が集まり、色々な催しが行われていた。気候危機は特に飢えに苦しむ子どもたち(弱い立場の人たち)へ影響が大きいこともあって、ユースの声を聴こうとする雰囲気があった。日本の若者の参加者もあった。

- ・日本の石炭火力政策が不評で、化石賞の対象になってしまった。

- ・日本の排出量削減目標はよくなってきたが、政策・実施面では不十分。実効性が試される。

- ・われわれのライフスタイルを変える努力。一世帯当たりの二酸化炭素排出量は5トン/年。

- ・住・食・移動の中で住の割合が大きい。住では電気の割合が大きく、再エネ電力への切り替え・省エネ家電の利用が重要。食では肉類を減らすと排出量削減に寄与。移動ではできるだけ自動車は使わず公共交通機関を利用。電気自動車の利用も。

- ・議員選挙には絶対行くこと。気候危機に対する姿勢・政策をチェックすること。「選ぶ」ことで変えることが重要。

### (質疑応答)

講演後の質疑応答では、あらかじめ寄せられた質問を優先的に先生より回答をいただきました。

- ・EV利用・技術革新による排出量削減効果について ⇒日本は、技術偏重の傾向がある。技術はあっても市場開拓で負けている。アップルのiPhoneのような製品が出てこない。

- ・入間川での小水力発電の実現性は？ ⇒川の落差と水量が必要。一級河川の許認可でも難しい。

- ・樹林・農地保全の脱炭素化への寄与は？ ⇒川越市(110?)全部に杉を植えても30~40年で300

万トン（10トン/年程度）のCO<sub>2</sub>削減。現状の市の排出量は約200万トン/年で効果は小さい。

・有機農業の脱炭素化への寄与は？ ⇒CO<sub>2</sub>削減効果もあるが、生物多様性にもつながる。ただし、有機農業は収穫が落ちるので、不足分を輸入すれば、その分排出量が増える側面もある。

・脱炭素化・地球温暖化を他人に伝え、関心を持ってもらうにはどうしたらよいか？ ⇒相手の人の趣味とか関心のあることと関連づけて話をしはどうか。（登山が好きな人には高山植物への影響）。

#### （オンライン配信について）

今回も昨年に引き続き YouTube を利用したオ

ンライン講演の同時配信も行いましたが、画像・音声も良好に録画収録されました。「かわごえ環境ネット YouTube」を検索していただくと講演内容の録画が視聴できます。12月15日現在で視聴回数は89回となっております。

#### （おわりに）

今回の講演会の開催に際して、ご協力いただいた講師山岸尚之先生、オンライン配信にご尽力いただいた小瀬理事長、川越市・社会環境部会の関係者そしてコロナ禍の中、足を運んでいただいた参加者にこの場を借りまして御礼申し上げます。

（宮崎誠）



**自然環境部会の活動**

**川越の自然の調査・保全再生活動**

**(1) 「(仮称)川越市森林公園」計画地での活動**

三芳・所沢・川越の畑作地で営まれている循環型農業（「武蔵野の落ち葉堆肥農法」）が 2017 年に「日本農業遺産」として認定されました。川越の福原地区に「(仮称)川越市森林公園」計画地として 38ha ほどのまとまった雑木林（一部畑地）があります。平成 16 年に公園化の基本構想が出されましたが、まだ実現にはいたっていません。その内 10ha 余りの公有地化されたエリアを中心に「森のさんぽ道」が敷設され、多くの市民が散歩に訪れています。ここは 500 種以上もの動植物の生息が確認されている、川越でも第一級の在来種遺伝子プールです。

実はここは川越の循環型農業のメッカともいえる平地林で、今も農用林として活用されているエリアがあります。環境ネット自然環境部会ではこのすばらしい雑木林を広く市民に知っていただくため、また次世代に引き継ぐために自然観察会の開催や、調査・保全・再生活動を行っています。「森を知り、森を楽しみ、森を育てる」を合言葉に毎月第 2 と第 4 の月曜日の午前中、20 名前後の会員がボランティアに参加しています。2021 年はコロナ禍ではありましたが 20 回活動し、延べ 383 名が参加しました。

**冬の雑木林**

1 月 11 日が年明け最初の活動日でした。この日は例年、一年間の予定を話し合います。その後、初冬の林内を巡ります。この時期の雑木林は静まり返っていて、樹々も葉を落とし梢が青空に映えています。林床は落ち葉で埋まっています。昨年より顕著になったナラ枯れ被害木をかなり見かけるようになりました。林の衰えがこのような形で出てきました。

また、この時期に野鳥の巣箱の営巣確認と掃除をしています。冬はシジュウカラ、エナガ、アオゲラなど野鳥の声がよく通ります。20 数個掛けた巣箱を下ろして、営巣の有無を確認し掃除をして、また春の繁殖に備えます。例年 7 割くらいの確率で利用されています。巣箱はシジュウカラが利用するのですが、あの小さな鳥が巣箱の中に 20 グラム以上の巣材を運ぶのです。コケ、獣毛、中には毛糸のようなものも集めています。

**「(仮称)川越市森林公園」計画地 調査・保全グループ**

2021年活動計画 実績				参加者
1月	11日	話し合い・観察	来年度の計画	16
	25	保全活動	初雁高校向い側	19
2月	8	保全活動	巣箱の点検・取り換え	21
	22	保全活動	初雁高校向い側(オドリコソウの森)	19
3月	8	保全活動	初雁高校向い側(オドリコソウの森)	9
	22	調査・観察	ウグイスカグラなど早春の花	19
4月	12	調査・観察	スマレ、樹木の新緑	23
	26	調査・観察	キンランなど希少種	20
5月	10	調査・観察	キンラン+クチナシグサ	19
	24	調査・観察	希少種調査	20
6月	14	調査・観察	イチヤクソウ、ノヤマトンボ	20
	28	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	19
7月	12	調査・観察	ヤマユリ、クモキリソウ	18
	26	保全活動	「武蔵野ふれあいの森」草刈り	16
9月	13	調査・観察	秋の七草	20
	27	保全活動	イワガラムのエリア	20
10月	11	調査・観察	川森の4つのメッシュの精査	19
	25	保全活動	イワガラムのエリア	22
11月	8	保全活動	イワガラムのエリア	22
	22	保全活動	イワガラムのエリア	雨中止
12月	13	保全活動	イワガラムのエリア	22
合計				383

年明け早々に農家のクズ掃き（落ち葉掃き）がはじまりますが、市民を募集してのクズ掃きは 2022 年は実施の予定でしたが当日の天候不良により中止になりました。

この雑木林で最初に花を咲かせるのはウグイスカグラです。2月の中旬には星の形の赤い花が見られます。シュンランもこの頃から咲き始め、5月頃まで長い花期です。また、この季節は落葉樹の冬芽が観察でき、葉がなくても樹種を確認することができます。これも冬場の楽しみ方です。



巣箱の掛け替え 年々危なっかしくなる

### 春の雑木林

3月の最初の活動日にはすでにウグイスカグラ、シュンランなどは花を咲かせています。野鳥ではヤマガラやモズ、コルリ、ルリビタキ、アオゲラの姿が見られます。

今年はとても嬉しいことがありました。それは在来のおドリコソウが一面に開花したのです。初雁高校向い側の林は野菜くずなどが捨てられ、荒れた状況でしたが川越フォレストクラブと自然環境部会の共同作業でみごとに蘇りました。



4/15 オドリコソウの群落



オドリコソウ



パピリオナケアまたはアメリカスミレサイシン 外来スミレ 最近増えてきた

### 夏の雑木林

夏は生き物にとって成長、繁殖の大切な時期です。樹木はいっぱい葉を広げ、空を見上げてもギャップはありません。足元には昆虫、クモ、トカゲの類がうごめいています。2021年は東京オリンピックが7月24日から開催でしたが、その直前まで雨の多い天候でした。それが終わると猛暑の連続で、雑木林はカラカラになりました。キノコもこの年は少な目でした。



夏場の雑木林の手入れは旺盛な草との格闘です。この林は外来種はあまり入り込んでいませんが、アズマネザサなどは刈っても刈っても繁茂しています。在来の希少種を刈らない様、手刈りのあと動力で刈払いしています。この作業の中で、たぶん初めてと思われる冬虫夏草の仲間のオサムシタンポタケが発見されました。メンバーの目が肥えてきて、このようなものを見逃さなくなった成果でしょう。



ヒメカバイロタケ 松に発生する



ツリガネニンジン



スキの向こうに畑と林

## 秋の雑木林

2021年の9月、10月は台風は少なく、倒木や枝折れの被害はあまり出ませんでした。この年、雑木林にとって悲劇的な現象が確認されました。ナラ枯れの被害がかなり及んでいたのです。全国的には様々な場所で発生していますが、ついにこの雑木林でも50本あまりの被害木がでました。対策はまだこれからです。

11月になると樹木の実次第に色づいてきて、ムラサキシキブの紫、ガマズミの赤が色をそえます。これらの実は野鳥たちの貴重な食べ物になります。そして種を落とすので樹木の散布役をしていることとなります。ウグイスカグラやガマズミはこの雑木林にかなりの本数がありますが、ほとんどが鳥達の仕事でしょう。手入れの際に簡単に切られてしまいがちですが、生き物の多様性のため残す手入れをしています。この頃リンドウが林床を飾ります。薄紫色の釣鐘のような花を見ると、信州かどこかの高原にいるような気分です。身近にある美しきスポットです。



ナラ枯れで伐採されたコナラ

自然環境部会のメンバーが毎月この地の生き物調査を続けて15年ほどになります。植物、動物（昆虫、クモ、爬虫類、哺乳類など）に関するデータは市のデータベース構築に登録して将来的に利活用できるようにまとめています。

## 保全・再生活動

「(仮称)川越市森林公園」計画地の公有地の保全再生活動は15年目になります。当初はジャングル状態になった放棄地を手入していましたが、最近では生物多様性保全のため、植生を調査しながらの手入れをしています。このような課程で新たに絶滅危惧種が見つかったり、在来のおドリコソウなど希少種の再生につながったりしています。

昨年からはナラ枯れが顕著になり、公有地エリアは市の方で伐採・搬出をしました。カ~~不法投棄~~キクイムシ被害の調査のためトラップをかけるなどの協力をしました。





## (2) 池辺公園の調査・保全活動

池辺公園は入間川流域、八瀬大橋の近くにあり、面積1.3haの小さな雑木林です。その昔、くぬぎ山がダイオキシン問題で全国的にニュースになっていた頃、その産廃が一部八瀬大橋河畔に運びこまれていたという情報もありました。そこかしこにゴミ山ができ、明らかに不法投棄ゴミの捨て場になっていました。いまではほとんどが撤去されていますが、一部ゴミ山が残っています。



アズマイチゲが群生するゾーン

このような背景の中で平成20年に川越市により公園化されました。埼玉県生態系保護協会による平成19年の基本調査でキツネノカミソリ、ハグロソウなどの絶滅危惧種があることが分かり、開園当初からこれらを保護育成するために自然環境部会が協力することになり、今日に至っています。

	2017	2018	2019	2020	2021
アズマイチゲ	20,000				
(花の数)	14		10	30	300
ウバユリ・株数			227	167	
・花数			44	32	78

表1. アズマイチゲの経年開花数

また、造園業者の方が草刈り作業時にアズマイチゲ(準絶滅危惧(N.T))の生息を発見され、川越ではこれまで確認がなく珍しい種ですので合わせて保護することになりました。そのアズマイチゲは気難しくなかなか花

を付けませんでした。この10年間、多い時で30花ほどでしたが、2021年の春にはナント、一気に300以上の開花でした。これまで他市の生息地の調査などして開花の少ない原因を探ってきましたが、分からずじまいでした。なぜ今、ここでこのように多く開花したのか、例えば十分に葉が広がり栄養を蓄え、開花期が巡ってきたとも考えられます。来年がどうなるか、引き続き気になるところです。

この林はずっと昔は入間川の氾濫があったと思われれます。今でも水を好む植生が見られ、エノキ、イボタノキなどが多くあります。福原地区の乾燥気味の雑木林には見られない植生です。また、ニセアカシア(ハリエンジュ)が道路沿いに多いのも特徴です。5月下旬からの開花期は、いい香りが漂います。

自然環境部会ではこれまで10年ほど調査保全活動を続けてきましたが、植物データは200種ほどです。他では見られない希少種もあり大切にしたい場所です。池辺公園周辺はモトクロスやサバイバルゲーム場、サッカーコートなどに利用されており、採石場へのダンプの出入りも多くかなり埃っぽく、荒れた雰囲気です。さらに一時は不法土砂堆積もありました。このような中で池辺公園はオアシスのような場所です。「コロナ」の影響か、最近は散策に訪れる方も多くなりました。

(報告 賀登環)



今年のアズマイチゲ



斜面で陽をあびるアズマイチゲ



冬場は手入作業

## 記念出版・観察会・調査活動など

2021年もコロナ禍が続き社会生活は大きく制限をうけました。当然環境ネットの活動も大きな影響を受けました。緊急事態宣言発令中は一般市民の方を対象にした観察会などは中止、解除されれば人数を制限しての開催となりました。「社寺林の観察会」は数年ぶりの開催、「新緑観察会・クリーン活動」、「キノコの観察会」は人数を制限しての開催。子どもたちが楽しみの市と共催の「虫の観察会」、「水上公園生き物観察会」は中止になりました。(緊急事態宣言中) 川のイベント「小畔川魚とり遊び」も中止でした。例年以上に頑張ったのが生き物調査です。

### (1) 新訂版「川越の自然」発行

かわごえ環境ネット設立20周年記念事業として発行されました。自然環境部会でこれまで集積したデータなどを元に、公募された編集委員15名で作成しました。A4版、オールカラー、180ページの体裁。3000部の出版で寄付金を頂いた方への頒布、公共施設への贈呈などで約2000部、残りの1000部ほどは市民の方にお分けしています。

観察会の時などに使用しますと「よくできていますね。」などとおほめを頂きます。市長さんにもご報告にいきました。



市長さんへの報告

かわごえ環境ネット設立20周年記念出版  
新訂版  
**川越の自然**  
—雑木林・河川・公園・湧水・社寺林を訪ねて—

「川越の自然を探しに行きましょう。ステキな景色や生き物が待っています!!  
ここは森の中。周りは樹がいっぱい。高い樹の梢から光漏れがまぶしい。地面は知らない草花があらここらに。夏にはカブトムシやクワガタがいてセシウムもいるさかいほどらしい。ここは広い河原。釣りをしている人がいる。アユもいるらしい。音の長い大きな白い鳥。ダイゼンかな。川沿いにはいっぱい樹があって鳥の音が聞こえる。ここはオオタカなどの猛禽類が何種類かいるらしい。もっと下っていくと川が何本も集まっている。さすが川越。この続きの散歩は新訂版「川越の自然」でどうぞ!!

2021年2月27日発行  
編集:かわごえ環境ネット/川越の自然/編集委員会  
発行:かわごえ環境ネット  
公益財団法人サイサン環境保全基金助成

判型:A5判 180ページ フルカラー  
価格:700円

頒布・問い合わせ  
かわごえ環境ネット事務局  
(川越市環境政策課環境推進担当)  
Tel.049-224-5866, Fax.049-225-9800  
kankyoseisaku@city.kawagoie.saitama.jp

内容の詳細や頒布方法など最新情報は  
かわごえ環境ネット20周年記念事業ホームページ  
<https://20th.kawagoekankyo.net>

2020  
かわごえ環境ネット  
20周年 自然環境部会・市民と川越へ

### (2) 「社寺林の観察会」

日時: 2021年6月20日(日) 9:30~12:00

参加者: 20名 講師: 山中和郎氏、稗島英憲氏 自然環境部会のスタッフ: 4名

「社寺林の観察会」は以前、2011年、2012年と実施されましたが、その後途絶えていました。この度、新訂版「川越の自然」を刊行するにあたり喜多院・中院の記事もリニューアルしましたので、この観察会を復活させました。昨年は自然環境部会主催の観察会はことごとく中止でしたが、今年は参加者人数を少なくして、感染対策を講じたうえで実施しました。Aグループは中院から出発です。



「あの榎がこんなに大きくなったのか。」川越育ちの男性参加者の方が中院駐車場の榎の大木を見上げて呟きました。川越の子どもたちに「燕が中院の枝垂れ桜をかすめて飛んだ。」(注1)と歌われ、いち早く春を告げる樹齢百年の枝垂れ桜には、傷んできた幹に庭師の方が施術用のシュロの包帯を巻き大切にされています。

赤松の変異種である多行松のユニークな樹形と磨かれた幹の赤さに感心しながら歩を進めると、足元に黄色い絨毯が広がります。見上げてみると楽しみにしていたモクゲンジの花が、樹木全体を覆うように咲き、梅雨空の下ひとときわ黄色く鮮やかです。この観察会を6月に行うのは、モクゲンジの鮮やかな花を見たいためです。秋には実ができて数珠に使われるそうで、お寺によく植えてある理由かもしれません。中院は「花の寺」と言われるだけに花が美しい多様な樹木が植栽されています。

次いで喜多院に向いました。Bグループと入れ替わりです。川越では珍しいと言われるアカガシが数本、幹の中が空洞になりながらも懸命に葉を着けています。アカガシは準絶滅危惧(NT)です。生命の神秘を感じていると慈眼堂横の菩提樹の傍らで講師の説明です。「これは釈迦が悟りを開いたと言われる熱帯性の印度菩提樹ではなく、唐から来たシナノキ属の菩提樹です。日本の寺院では葉の形が似ているのでこれが植えられたようです。」生態系活動40年の講師の説明は丁寧で分かりやすい。

「この木の花、実は先程見たシナノキと同じで、苞と呼ばれる蕾を包んでいた葉の様なものの中に着いています。この実も数珠になります。」社寺林にはやはり仏教に縁のある木もあるが、ケヤキ、ムクノキ、クスノキ、アラカシ、スダジイ等古くから生育してきた大径木もあります。森林性や樹洞を利用する生物も、それに依り守られてきているのだと、改めて喜多院の「鎮守の森」のすばらしさを認識しました。

「この大木たちも次世代に残って行って欲しいな。」メルヘンチックなモミジバフウの実とマストを立てたボートの様な菩提樹の実を大事そうに持ち帰る若い女性参加者の後ろ姿を見ながらそう思いました。

(注1 作詞：こわせたまみ 作曲：若松正司 「春の城下町」より)



多行松を見上げる



質問が途切れない



モクゲンジの花



根元が空洞になったアカガシ



天海僧正お手植えのコウヤマキ



### (3)「キノコの観察会」

日時：2021年7月3日(土) 9:30~12:00

講師：大久保彦氏、穂島英憲氏

場所：「(仮称)川越市森林公園」計画地、南文化会館

参加者：19名、スタッフ4名

2008年9月に第1回の「キノコの観察会」を始めまして、2019年まで12回行い、昨年はコロナ禍で中止になり今年は感染対策をとって再開いたしました。当日は朝から雨が降っていたので心配でしたが、開始するころになると雨はやみました。

AグループとBグループに分かれ観察会資料と、きのこ冊子を手に元気に林の中へ。初めて目にする色とりどりのきのこに大人も子供も大はしゃぎ。最初はきのこにさわることによって不安気だったようですが講師の説明を聞き、興味がわき採取したきのこはバスケットの中へ。チャウロコタケは「ワーっとも薄い、ペラペラだー」などと声があがり皆で代わる代わるさわって観察。ホコリタケでは押しへこんでも弾力があり、もとに戻るなどを体験。カワリハツの緑系の物は、さわると傘の表面がヌルヌルすると大騒ぎ。チチタケではキズをつけると白い乳液が見るまに噴き出て来るのを見てビックリ、匂いをかいて「いい匂い、きのこの匂いがする」など。

小さなベージュの花のようなヒメツチグリを見て「小さいね、お花みたいだね、本当にきのこの」との声も。又林の中は、どこを歩いてもフカフカしていて気持ちがいいねと、とてもうれしそうでした。オニイグチモドキの傘は真黒な鱗片を密生し、割ると赤く変色、皆興味津々、講師の方が鱗片のボチボチが猪の鼻の感触によく似ているので、イグチと言います。「でも私は猪の鼻は、さわったことはありません」と言ったので一同大笑い、楽しい一幕も。ツチカブリやシロハツでも味を試して「ワーピリピリする、苦い」と散々な方も。

再び部屋に戻り採集したきのこを新聞紙を敷いたテーブルに並べ、子供達が用意された紙にきのこの名前を書き、きのこの横に置き皆で観察。最後に講師の方々に聞きたいことはありますかとの問いに、「ここにあるきのこの中で一番珍しい物はどれですか？」講師の方々は、「珍しいきのこは無いです。」と答えられ皆大笑い。和やかな雰囲気の中、観察会は終わりました。



あちこちにキノコがありますね



小さなキノコ博士



ヒメツチグリ



コキララタケ



ぼくも見つけたよ



キノコ鑑定団

#### (4) キタミソウ観察会

日時：2021年11月7日(日) 9:00~12:00

講師：福原時夫氏、稗島英憲氏（(公財) 埼玉県生態系保護協会会員）

場所：伊佐沼

参加者：32名、スタッフ6名

この時期になりますとキタミソウが川越伊佐沼で初めて“発見”されたことを鮮明に思い出します。2018年11月11日でした。その経緯は先月号のコラム「川越の自然を訪ねて」に詳しいのでそちらをご覧ください。キタミソウは「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」の22種の動植物のうちの一つで他の絶滅危惧種とはちがひ、強い保護が求められています。今回の観察会は環境ネットとしては2019年以来となります。2020年はコロナ禍で開催できませんでした。この度は埼玉県生態系保護協会川越坂戸鶴ヶ島支部との共催で実施する運びとなりました。（以後生態系支部）生態系支部は伊佐沼で長年、「伊佐沼探鳥会」を開催してきて伊佐沼の環境には尽力してきています。キタミソウ発見後は分布調査や生育調査などを始めています。

当日は天候晴れ、気温18℃で快適な観察日和。広報川越で応募された市民13名、生態系会員19名とかなりの参加者ですので、二つのグループに分かれて行動です。まずは九十川への排水口付近の群生地へ。ここでまず、グーッと屈伸運動になります。何しろ地面に“かぶりつき”でないと見えません。へら状の小さな葉を確認し、さらにその中にあるまことに小さな数ミリの花が見えた時、参加者の皆さんからは「えーっ、ホントだ、花の形してる！」と歓声があがりました。ひとしきりキタミソウをみて、次には周りにある草花に視点が向きます。コイヌガラシ、アメリカアゼナ、チョウジタデなど湿地性の植物が10種以上あります。

次は北側の階段や木道のあるところの湿地帯。ここではさまざまな段階のキタミソウが観察できました。青々とした葉がしげりこれから開花するもの、既に開花が終わり種子を付けているもの、茶色くなり枯れかけたものなど。これらのステージの違いは湿り具合に依存しているようで、少し乾いてくると足早に結実するようです。開花時期も伊佐沼では10月、3月頃とサイクルが2回繰り返されます。

最後は二つのグループが合流し、まとめや疑問点など情報を共有しました。キタミソウを見たのは初めて、という方が半数近くおられましたので、成果があったと思われます。冊子「川越の自然」も7冊購入がありました。



九十川排出口付近 とにかくしゃがみ込む



中洲の蓮田予定地 ここにも群生



北側階段でまとめ・



キタミソウ 葉と花



キタミソウ 種子



コイヌガラシ 準絶滅危惧



### (5) 古谷湿地魚観察会 10月23日(土)

このイベントは環境政策課主催で、協力は自然環境部会です。10年以上前から行われていますが悪天候や、増水などでよく中止になっています。今年はコロナ禍ではありましたが、感染者も少なくなり昨年につき実施でした。当日は天気も良く穏やかな日よりで、親子10名ほどの参加でした。

今年は市の方で子ども用のウェダーを準備し、お子さんも中に入って、夢中で魚取りをしていました。最後に若いスタッフがジャブジャブと水を漕ぎ魚を追い込み、子どもたちが「さで網」でキャッチします。でも取りつくしたのか、エビくらいしかかかりませんでした。

部屋に戻って採捕した魚類をチェックしてみるとオイカワ、タイリクバラタナゴなど15種ほどでした。



ガサガサをするといろいろな魚が入る



サア、追い込みだ！



採捕した魚類を見る

### (6) 城南中学校学習支援

城南中学校2年生の先生から、環境政策課に川越の自然についての講演依頼があり、自然環境部会で対応しました。コロナ禍で修学旅行が中止になり代替で「川越の魅力再発見」という総合学習プログラムになり、その一環としてでした。川越の歴史や、文化財、名物のサツマイモなど5名の講師が講演し、それを基に生徒たちがフィールドワークに出かけるというものでした。私が担当した「川越の自然」については10名の生徒が「(仮称)川越市森林公園」計画地にフィールドワークに訪れましたので、自然環境部会のメンバー3名で対応しました。



10/19 体育館での講演会



11/2 フィールドワーク キノコに注目 落葉溜を見る



## 自然環境部会 生き物調査

自然環境部会は、環境政策課の「かわごえ生き物調査」に協力して、市内各地の動植物調査をしています。2017年から部会のメインテーマとして取り組んできて、5年目になります。ここでこれまでの調査の中間まとめをするにあたり、空白のメッシュコードの場所や、種類の報告の少ないものなど、焦点化して精力的に取り組みました。

### (1) 笠幡の森 日時：2021年5月26日(水) 9:30~12:30 参加者：10名

行程：尾崎神社集合 → 笠幡の森(2か所) → 鶴ヶ島市太田ヶ谷の森

野鳥：ホトトギス、キビタキ、アオゲラ、ホオジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、コジュケイ

昆虫：ナミテントウ、アカシジミ、カノコガ、ヤマトシリアゲ、キアシドクガ、コムスジ、ルリタテハ、モンシロチョウ、サトキマダラヒカゲ、クサカゲロウ、ヨコヅナサシガメ、アジアイトトンボ、マミジロハエトリ、ゴミグモ(可哀想な名前)

植物：133種 シンミズヒキ、ヤマジノホトトギスなど

専門家グループの調査みたく、それぞれの課題に集中し、世話役の声はほぼ無視。3か所と欲張ったせいか時間不足でしたが、皆様の集中力で成果は大きかったと思われます。鶴ヶ島に隣接するこのあたりは福原ほどの乾燥地帯ではなく、ミズキなどが多く多少違いがあります。太田ヶ谷の森には湧水のビオトープがあります。



笠幡の森 その1



笠幡の森 その2 林縁部が奥に20mほど皆伐されている 近隣の苦情で



太田ヶ谷の森 希少種がまとめて保護されている 大丈夫かな

### (2) 寺尾調節池 6/18(金) 6名参加

ヤナギがほとんど伐採され、対岸の学校や住宅がよく見通せる。入り口近くの池の周りにオニナルコスゲらしき植物調査を見つけ、後に専門家の鑑定で確認された。絶滅危惧Ⅱ類(VU)なので県土整備事務所に保全の申し入れをした。昆虫はチョウやバッタなど14種ほど。野鳥はツバメ、カワセミ、セッカなど14種。他にウシガエル、メダカ。

9/6(月) 8名参加

秋になり、植物はセイバンモロコシ、アレチウリが大いに繁茂。湧水のでる小さな流れでタコノアシを見つける。野鳥は12種。昆虫は、チョウ・トンボ・バッタが多く30種ほど。ヒメジャノメ、ミヤマチャ



木道付近でトンボ



タコノアシ



ゴイサギの親子

バネセセリがここでは初めて。



**(3) 平塚地区** 7/30(金) 7名参加 講師：牧野彰吾氏

小畔川と入間川に沿っての土手沿い調査 植物は土手、河川敷、湿地の種類が80種、昆虫は約34種と多くの生き物が観察されました。ノカラムツ、ヌマトラノオ (RD)、ウマノスズクサ、アカハネナガウンカなど珍しいものがありました。



アカハネナガウンカ

**(4) 下広谷地区** 9/29(水) 7名参加

川越の北西部、坂戸市との境界あたりのわずかに残ったメッシュコードの3か所を手分けして調査しました。大堀山館跡から少し北へ移動したあたりで、RD種は見つかりませんでした。(右写真)



**(5) 城西高校から入間川河川敷** 10/15(金) 7名参加

城西高校の北側は入間川、越辺川が合流し、広大な河原風景が広がります。土手沿いに河川敷まで調査しました。ほとんどは強力な外来種の連続ですが、こんもりした樹林の中には在来種もあり、100種近く見つかりました。

自然環境部会ではできるだけ空白のエリアが無いように、個人で、グループで精力的に調査に歩きました。



## エコアクション21の取得推進

「エコアクション21」は、環境省が策定した環境経営の認証・登録制度です。環境に配慮した経営に取り組む企業に対し「認証」を与えるとともに、環境への取組強化を通じて、コスト削減、業務改善、従業員の意識改革、組織の活性化など経営力の持続的な向上を支援する「企業価値向上ツール」としても位置付けられています。

川越市では、「第三次川越市地球温暖化対策実行(区域施策編)」において、事業所における温室効果ガス排出削減に向けた施策として、環境経営の普及促進を掲げており、その一環として「エコアクション21」の取組を推進しています。

市では、平成21年度からエコアクション21の認証取得を支援する研修会を開催しており、令和3年度までに、18事業者がこの研修会を通して認証を取得しました。



▲エコアクション21ロゴマーク



研修会の様子

## 川越環境保全連絡協議会の令和3年度事業報告

### I. 環境保全に関する事業実施

1. 県外環境保全対策先進企業視察研修会  
新型コロナウイルス感染症対策のため中止
2. 県内事業所視察研修会  
新型コロナウイルス感染症対策のため中止
3. 2021かわごえ産業フェスタ  
新型コロナウイルス感染症対策のため中止
4. 環境小江戸塾  
新型コロナウイルス感染症対策のため中止
5. 2021新春講演会  
新型コロナウイルス感染症対策のため中止



## Ⅱ. 諸会議

### 1. 定期総会

日時 2021年5月21日（金）  
新型コロナウイルス感染症対策のため書面決議

### 2. 理事会

日時 2021年4月23日（金） 午後3時30分

場所 川越商工会議所 大会議室

議事 ・定期総会提出議案について  
・定期総会開催について  
・2021年度 各小委員会事業について

日時 2021年6月25日（金）  
新型コロナウイルス感染症対策のため中止

日時 2021年7月30日（金）  
新型コロナウイルス感染症対策のため中止

日時 2021年10月22日（火） 午後3時30分

場所 川越商工会議所 大会議室

議事 ・委員会活動について  
・法規改定等について  
・その他

日時 2021年11月14日（金） 午後3時30分

場所 川越商工会議所 大会議室

議事 ・川越環境保全連絡協議会の活動について  
・講演・研修・小江戸塾・かわごえ環境ネット委員会  
・県外・県内視察小委員会  
・法規改定等のご案内  
・埼玉県環境保全功労者及び環境保全優良事業所の推薦について  
・その他

日時 2022年1月14日（金） 午後3時00分

場所 川越商工会議所 大会議室

議事 ・講演・研修・小江戸塾・かわごえ環境ネット委員会  
・県外・県内視察小委員会  
・川越環境保全連絡協議会の活動について  
・その他

### 3. 小 委 員 会

#### ○総務広報小委員会

日 時 2021年10月22日(金) 午後2時30分

場 所 川越商工会議所 小会議室

議 事 ・2021年度の取組について  
・役員担当割について  
・その他

日 時 2022年1月14日(金) 午後2時00分

場 所 川越商工会議所 大会議室

議 事 ・定期総会について  
・その他

### Ⅲ. 環境保全に関する資料の収集及び提供について

1. 埼玉県環境部環境政策課発行の埼玉県環境白書の配布
2. 埼玉県環境検査研究協会の環境ニュースの配布

### Ⅳ. 埼玉県環境保全連絡協議会関係

#### 1. 通 常 総 会

日 時 2021年6月3日(木)

新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催

#### 2. 理 事 会

日 時 2021年11月26日(金)

書面開催

議 事 ・2021年度事業中間報告について  
・環境保全功労者及び環境保全優良事業所の表彰の推薦について

日 時 2022年3月8日(火) 午後1時30分～午後3時30分

場 所 WEB 開催 (ZOOM)

議 事 ・環境保全功労者及び環境保全優良事業所の選考(選考委員会)  
・第2回理事会の開催について  
・その他

#### 3. 視察研修会

※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

4. 環境保全懇談会  
※新型コロナウイルス感染症対策のため中止
  
5. 環境行政意見交換会  
※新型コロナウイルス感染症対策のため中止